

⑩ 日本国特許庁(JP) ⑪ 特許出願公開  
 ⑫ 公開特許公報(A) 昭62-59076

⑬ Int. Cl.<sup>4</sup> 識別記号 庁内整理番号 ⑭ 公開 昭和62年(1987)3月14日  
 B 41 M 5/00 6771-2H  
 B 32 B 7/02 6804-4F  
 7/06 103 6804-4F ※審査請求 未請求 発明の数 1 (全9頁)

⑮ 発明の名称 保護部材

⑯ 特 願 昭60-198681

⑰ 出 願 昭60(1985)9月10日

⑱ 発 明 者 山 本 真 由 美 川崎市高津区下野毛770番地 キヤノン株式会社玉川事業  
 所内  
 ⑲ 発 明 者 鈴 木 鋭 一 川崎市高津区下野毛770番地 キヤノン株式会社玉川事業  
 所内  
 ⑳ 発 明 者 柳 嶋 理 恵 子 川崎市高津区下野毛770番地 キヤノン株式会社玉川事業  
 所内  
 ㉑ 発 明 者 戸 叶 滋 雄 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内  
 ㉒ 発 明 者 木 村 稔 章 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内  
 ㉓ 出 願 人 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号  
 ㉔ 代 理 人 弁理士 若 林 忠  
 最終頁に続く

明 細 書

1. 発明の名称

保護部材

2. 特許請求の範囲

- (1) 基材と該基材上に附設可能に設けられた多層構造の転写層とを有して成る保護部材において、該転写層が少なくとも蛍光増白剤、紫外線吸収剤、及び光安定化剤を含有して成ることを特徴とする保護部材。
- (2) 該転写層が紫外線吸収剤と光安定化剤を含む層と、蛍光増白剤を含む層の2つの層を有して成る特許請求の範囲第1項記載の保護部材。
- (3) 蛍光増白剤を含む層が基材に隣接もしくは近接して成る特許請求の範囲第2項記載の保護部材。
- (4) 該転写層が紫外線吸収剤を含む層と、光安

定化剤を含む層が基材から最も離れて位置して成る特許請求の範囲第4項記載の保護部材。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、記録液を用いた記録法、なかでもインクジェット記録法により紙などに画像を記録して形成した印画物(プリント)のラミネート処理用部材として好適な保護部材に関する。

(従来の技術)

インクジェット記録法は、記録ヘッドのオリフィスから、記録液の小滴を紙等の被記録材上に付着させて記録を行なう記録方法であり、乾着の発生が少なく、特別な定着処理を要することなく、高速度記録、フルカラー記録が行なえる記録法として注目されている。

このインクジェット記録法に用いられる記録液

## 特開昭62-59076(2)

このようにインクジェット記録法に於いては、水性系の記録液が使用されるために、記録に用いる被記録材には記録液の吸収、定着性に優れていることが要求される。なかでも、2色以上の記録液を用いた多色インクジェット記録に於いては、被記録材上に付着する記録液の量も多くなるので、記録液の吸収及び定着性に特に優れていることが要求される。

このような特性に優れた被記録材としては、紙等の基材上に、記録液の吸収、定着性に優れた多孔質からなる記録液の受容層が設けられたものが知られている。

(発明が解決しようとする課題)

ところが、インクジェット記録により形成されたプリントに於いては、主に水性の染料が記録剤として使用されていることから、記録画像の耐水性、耐溶剤性、耐摩耗性等が必ずしも充分ではない。また、記録剤成分として用いられる染料の多くは、長期間にわたり、継続的に、あるいは断続的に光に曝された際の耐光性に劣り、そのような

染料によって形成された画像の着色、退色更には消色を起し易いという問題があった。

更に、水性記録液の記録剤成分以外の成分には、比較的揮発しにくい成分も含まれており、記録後の記録画像の乾燥定着にある程度の時間が必要とされる。

一方、多孔質の記録液の受容層を有する被記録材の場合には被記録材表面の光沢性に欠け、鮮明に記録された画像でも、目視した場合の画像の鮮明性が損なわれるという欠点があり、特に、多色カラー画像をインクジェット記録法により記録してカラープリントを形成する場合の1つの解決すべき問題点となっていた。

本発明は、上記のような問題点に鑑みおされたものであり、基材上に設けられたラミネート用樹脂層からなる転写層を記録画像上に転写、積層して、記録画像に前述したような、例えば耐水性、耐光性あるいは光沢等を付与するための記録画像のラミネート処理に用いる保護部材の転写層中に紫外線吸収剤と光安定化剤と蛍光増白剤とを含有

させておくことにより、プリントに前述した種々の特性、特に十分な耐光性を付与し、かつ記録画像の鮮明性や品位を良好なものとすることが可能であることを見出し完成されたものである。

本発明の目的は、記録液を用いて形成したプリントの記録画像に、耐水性、耐摩耗性、耐溶剤性等とともに、良好な耐光性を添付に付与することのできる樹脂による画像のラミネート処理に用いるのに好適な保護部材を提供することにある。

本発明の他の目的は、プリントの記録画像面に光沢を付与して、記録画像を良好なものとすることのできるプリント保護部材を提供することにある。

本発明の更に他の目的は、プリントの記録画像面に光沢を付与し、かつ被記録材の白色度を適度なものとして、記録画像を良好なものとすること

である。すなわち片面のみをラミネート処理することのできるプリント保護部材を提供することにある。

(問題点を解決するための手段)

本発明の上記目的は、基材と該基材上に剝離可能に設けられた多層構造の転写層とを有して成る保護部材において、該転写層が少くとも蛍光増白剤、紫外線吸収剤、及び光安定化剤を含有して成る保護部材により達成される。

以下、本発明の保護部材を断面を参照しつつ詳細に説明する。

本発明の保護部材は、機能的に見ると、記録液をもって形成された印画物(プリント)の画像が記録されている面(記録画像面)の上に転写、積層される転写層1と、該転写層を支持する基材2とに分けることができる。

## 特開昭62-59076(3)

を含有している層1aと紫外線吸収剤と光安定化剤を含有している層1bより成り、層1aは転写層1が記録画像面上に転写、積層される際に、基材2から剝離可能であるように基材2に支持されている。

本発明の保護部材の形態は第1図のものに限らず、光安定化剤と紫外線吸収剤の相溶性が悪い場合は例えば第2図のように転写層1が蛍光増白剤を含む層1aと紫外線吸収剤を含む層1b、と光安定化剤を含む層1b、から成るようにしても良い。いずれにしても基材から最も離れている層には少なくとも光安定化剤が含まれていて、かつ蛍光増白剤が含まれている層よりも該基板に近い層は存在しないか、存在する場合にはその層には紫外線吸収剤が含まれていないということが必要である。

転写層1は、上記のように基材2に支持された状態で、ラミネート処理しようとする記録画像上を這覆することができるようプリントに積層され、圧着及び／または融着等の処理により、記録画像面上に貼着され、そこに残留し、記録画像の保

護層として機能する。なお、基材2は、転写層が記録画像上に貼着された後に、転写層から剝離され、従って上記のように記録画像上には転写層1のみが記録画像の保護層として残される。

転写層1は、該転写層が覆う記録画像の形状及び大きさに対応した諸々の形状及び大きさとされる。一方、基材2は、少なくとも転写層1を支持できる形状及び大きさとされる。

本発明の保護部材の有する基材には、紙、布、プラスチックフィルム等の表面にシリコン樹脂等の各種の剥離性능を有する剥離処理剤を塗工したもの、あるいはマイラーフィルム、ポリプロピレンフィルム等のそれ自身、以下に挙げる転写層に対して剥離性능のあるフィルムなどを用いることができる。

転写層1は、上述したように、記録画像面の表面に積層可能であり、記録画像に耐水性、耐摩耗性、耐溶剤性等の特性を付与することのできる、エチルセルロース、酢酸ビニル樹脂及びその誘導体、ポリエチレン、エチレン-酢酸ビニル共重合

体、アクリル樹脂、ポリスチレン及びその共重合体、ポリイソブチレン、炭化水素樹脂、ポリプロピレン、ポリアミド樹脂、ポリエステル樹脂等の熱可塑性樹脂を主体として形成される。その際、転写層1の基材から最も離れて位置する光安定化剤を含有する層1bは、特に記録画像面に十分な接着力をもって積層可能であるように、その構成材料を選択して得られる。

転写層1の基材に接している層を、基材2が剝離された後の該層の外表面が最終的に光沢をおびるように形成すれば、記録画像面表面に光沢を付与することができる。また、転写層1の各層には、フックス類、可塑剤、粘着性付着剤、酸化防止剤等の種々の添加剤が添加されていても良い。

このような構成の本発明の保護部材は、上述した基材上に、各々の層を成す各組成物をバーコー

（画像面）のみをラミネートする場合に好適であるので、その転写層が、加熱処理によってプリントに貼着するものである場合には、加熱処理後の湿度変化による転写層の収縮率が、プリントの収縮率と同程度、若しくは転写層の収縮によってラミネートされたプリントにカールが生じないような程度とされるように形成されることが好ましい。

本発明の保護部材の有する転写層に含有される紫外線吸収剤としては、転写層が記録画像の保護層として機能する際に、転写層中を透過する光のなかでも、記録液の記録剤として使用されている染料を分解、変質させることによって、画像の変色、退色あるいは消色などを起す主な原因となる300～380 nmの光を主に吸収するものが好適であり、そのようなものとしては、例えばシ

## 特開昭62-59076(4)

シ-4,4'-ジメトキシベンゾフェノンなどのベンゾフェノン系の化合物；例えばチヌビン(Tinovin) P (商品名、チバガイギー社製)等の2-(2'-ヒドロキシ-5'-メチルフェニル)ベンゾトリアゾール、例えばチヌビン PS (商品名、チバガイギー社製)等の2-(2'-ヒドロキシ-5'-tert-ブチルフェニル)ベンゾトリアゾール、例えばチヌビン320 (商品名、チバガイギー社製)等の2-(2'-ヒドロキシ-3',5'-ジtert-ブチルフェニル)ベンゾトリアゾール、例えばチヌビン326 (商品名、チバガイギー社製)等の2-(2'-ヒドロキシ-3',5'-tert-ブチル-5'-メチルフェニル)-5-クロロベンゾトリアゾール、例えばチヌビン327 (商品名、チバガイギー社製)等の2-(2'-ヒドロキシ-3',5'-ジtert-ブチルフェニル)-5-クロロベンゾトリアゾール、例えばチヌビン328 (商品名、チバガイギー社製)等の2-(2'-ヒドロキシ-3',5'-ジtert-アミルフェニル)ベンゾトリアゾール、例えばチヌビン109 (商品名、チバガイギー社製)等の5-tert-ブチル-3-

-(5-クロロ-2H-ベンゾトリアゾール-2-yl)-4-ヒドロキシベンゼンプロピオニクアシッドオクチルエステル、例えばチヌビン960 (商品名、チバガイギー社製)等の2-(2'-ヒドロキシ-3',5'-ジ(1,1-ジメチルベンジル)フェニル)-2H-ベンゾトリアゾールなどのベンゾトリアゾール系化合物；例えばシーソーブ(Seesorb) 20i (商品名、日石カルシウム社製)等のフェニルサリシレート、例えばスミソーブ90 (商品名、佳友化学社製)等のp-tert-ブチルフェニルサリシレート、例えばOPS (商品名、イーストマン ケミカル社製)等のp-オクチルフェニルサリシレートなどのサリチル酸系の化合物などを挙げることができる。

上記の紫外線吸収剤の第1図に示した転写層を構成する層1b中での含有量としては、0.5～5.0重量%程度が好ましく、より好ましくは、1.0～2.5重量%程度にするのが良く、また第2図に示した転写層を構成する層1b<sub>1</sub>中での含有量としては、1.0～2.5重量%程度が好ましく、より好ましくは、1.5～2.0重量%程度にするのが良い。

本発明の保護部材の転写層中に含まれる光安定化剤は、主に上記紫外線吸収剤には吸収されない光によって、または他の何らかの原因で転写層内及び/又は被記録材表面層(染料含有層)に発生した画像を形成する染料にとって有害なラジカル(例えば、ハイドロパーオキシサイドラジカル；HOO・等)を転写層内で、更にラミネート時に転写層が浸透した被記録材表面層で矢括させることによって、記録画像の耐光性を大きく改善するものである。

上記の光安定化剤(ラジカル捕捉剤)としては、例えばサノール(SANOL) LS 170 (商品名、チバガイギー社製)等のビス(2,2,6,6-テトラメチル-4-ピペリジル)セバケート、例えばサノール LS 785 (商品名、チバガイギー社製)等のビス(1,2,2,6,6-ペンタメチル-4-ピペリジル)セバ

844LD(OF) (商品名、チバガイギー社製)等のポリ〔〔6-(1,1,3,3-テトラメチルブチル)イミノ-1,3,5-トリアジン-2,4-ジイル〕〔(2,2,6,6-テトラメチル-4-ピペリジル)イミノ〕ヘキサメチレン〔(2,2,6,6-テトラメチル-4-ピペリジル)イミノ〕〕、例えばチヌビン144 (商品名、チバガイギー社製)等の2-(3,5-ジtert-ブチル-4-ヒドロキシベンジル)-2-n-ブチルマロン酸・ビス(1,2,2,6,6-ペンタメチル-4-ピペリジル)等のヒンダードアミン系の化合物を挙げることができる。

また上記の光安定化剤の含有量は第1図に示した転写層を構成する層1b中での含有量としては、0.01～0.5重量%程度が好ましく、より好ましくは、0.1～0.5重量%程度にするのが良く、また第2図に示した転写層を構成する層1b<sub>1</sub>中での含

## 特開昭62-59076(5)

白剤は、340 ~ 400 nmの範囲の波長領域の光を吸収して、400 ~ 500 nmの領域の光を放出し、蛍光増白効果を発揮するものである。

この蛍光増白剤は、一般に被記録材にその白色度を向上させるために含有されているものであるが、前記の紫外線吸収剤及び光安定化剤を含む転写層を被記録材にラミネートすると、被記録材に照射される光のうち蛍光増白効果に有効な波長領域を含む300 ~ 380nmの波長領域の光が紫外線吸収剤に吸収されて、被記録材中の蛍光増白剤の効果が十分に得られなくなる。そこで本発明においては転写層に蛍光増白剤が含有されており、画像の白色度を向上させるのに役立っている。

上記の蛍光増白剤としては、ユビテックス(Uvitex) 08、BAC、BAC(商品名、チバ・ガイギー社製)、ホワイテックス(Whitex)シリーズ(商品名、住友化学社製)等を用いることができる。

また、本発明の保護部材の転写層の有する層1a内に於ける、蛍光増白剤の含有量は、0.01~0.5重量%程度とされる。

材では、蛍光増白剤の含有量がその1/10程度で、同様の効果を得ることが可能である。

また、紫外線吸収剤と光安定化剤の相溶性が悪い場合はそれらを別々の層に入れることが望ましいが、この場合光安定化剤を含む層は、記録画像をラジカル等から保護する目的のため、転写後被記録材の表面に接するように基材1から最も離れた位置に設けられることが望ましい。

このような構成の本発明の保護部材は、例えば第1図に示すものは以下のようにしてプリントのラミネート処理に使用することができる。まず、第3図(a)に示すようにインクジェット記録法などの記録液による記録法によって形成されたプリント3の記録画像面3aに、本発明の保護部材を貼合わせる。このとき、該プリントの記録画像面3aが、本発明の保護部材の有する転写層1に直接

上記の紫外線吸収剤、光安定化剤、蛍光増白剤は3つ併用されることにより個々の作用が更に増強される。すなわち紫外線吸収剤が吸収すべき300 ~ 380nmの波長領域の光は、部分的には蛍光増白剤によっても吸収される。また光安定化剤は、画像を形成する染料を劣化させるラジカルを無害化させる効果、ラジカルによる画像の劣化を防ぐと共にラジカルによる転写層を形成する樹脂材料の劣化も防ぎ、紫外線吸収剤及び蛍光増白剤の作用の劣化も防げる等の効果がある。

また第1図、第2図に示すような構造の転写層は、記録画面上に転写された際に、画像に照射する光が紫外線吸収剤を含む層を通らずに蛍光増白剤を含む層にあたるような層構造になっており、該蛍光増白剤を含む層には、紫外線吸収剤が含まれていないため増白効果に必要な波長領域の光が十分に蛍光増白剤に供給されるので、より少ない蛍光増白剤の添加量で十分な効果を得ることができ、例えば同一層内に蛍光増白剤と紫外線吸収剤を含有させた場合と比較すると、本発明の保護部

材の処理によって、転写層1は、プリント3の記録画像面3aに貼着される。

なお、加熱圧着に際しての圧力及び温度等の条件は、例えば転写層表面が溶融して、記録面に貼着できるように、転写層に使用された材料に応じて適宜選択される。

次に、転写層1の記録画像面3aへの十分な接着力が得られた状態で、基材2を、転写層1から剥離し、第2図(b)に示すように記録画像面3a上に転写層1のみを残して、ラミネート処理を完了する。

## (実施例)

以下、実施例に従って本発明を更に詳細に説明する。

## 実施例1

透明塗料A；

## 特開昭62-59076(6)

チオピン320 1 重量部  
(商品名、チバガイギー社製、紫外線吸収剤)

チオピン144 0.2 重量部  
(商品名、チバガイギー社製、光安定化剤)

## 透明塗料B:

(組成)

ダイヤナール LR-216 100 重量部  
(商品名、三菱レイヨン株式会社製、アクリル樹脂の40%トルエン溶液)

ユビテックス 00 0.1 重量部  
(商品名、チバガイギー社製、蛍光増白剤)

上記組成の透明塗料Bを50 $\mu$ m厚のPET(ポリエチレンテレフタレート)フィルム上に乾燥膜厚が15 $\mu$ mとなるようにバーコート(※25)を用いて塗布した。これを乾燥した後、その上に上記組成の透明塗料Aを同様にして塗布、乾燥して、PETフィルム上に2層構成の厚さ30 $\mu$ mの転写層を形成

ダイヤナール LR-468 100 重量部  
(商品名、三菱レイヨン株式会社製、アクリル樹脂の40%トルエン・MEK溶液)

サノール LS 770 0.2 重量部  
(商品名、チバガイギー社製、光安定化剤)

## 透明塗料E:

(組成)

ダイヤナール LR-459 100 重量部  
(商品名、三菱レイヨン株式会社製、アクリル樹脂の40%トルエン・MEK溶液)

ユビテックス 00 0.1 重量部  
(商品名、チバガイギー社製、蛍光増白剤)

上記組成の透明塗料Eを50 $\mu$ m厚のPET(ポリエチレンテレフタレート)フィルム上に乾燥膜厚が

し、転写剥離型の本発明の保護部材を得た。

次に、カラーインクジェットプリンター PJ-1080(キヤノン株式会社製)を用いてインクジェット記録用紙にマゼンタ色のベタ印字を行ない、これに、ラミネータ(M3ラミベッタ商標名 L-2302:明光商会製)を用いて、先に作製した本発明の保護部材を、その転写層が記録面を覆うようにラミネートした。その後、PETフィルムを記録面上から剥離して、ラミネートサンプル1を得た。

## 実施例2

## 透明塗料C:

(組成)

ダイヤナール LR-468 100 重量部  
(商品名、三菱レイヨン株式会社製、アクリル樹脂の40%トルエン・MEK溶液)

ユビナール 0-48 1.5 重量部  
(商品名、バスフ(BASF)社製、紫外線吸収剤)

## 透明塗料D:

(組成)

これに塗布し厚さ30 $\mu$ mの転写層を形成し、転写剥離型の本発明の保護部材を得た。

更に、実施例1と同様にして、ラミネートサンプル2を得た。

## 比較例1

## 透明塗料F:

(組成)

ダイヤナール LR-472 100 重量部  
(商品名、三菱レイヨン株式会社製、アクリル樹脂の40%トルエン溶液)

スネソープ 90 0.8 重量部  
(商品名、住友化学社製、紫外線吸収剤)

## 透明塗料G:

(組成)

ダイヤナール LR-472 100 重量部  
(商品名、三菱レイヨン株式会社製、アクリル

## 特開昭62-59076(7)

上記組成の透明塗料Gを50 $\mu$ m厚のPET(ポリエチレンテレフタレート)フィルム上に乾燥膜厚が15 $\mu$ mとなるようにバーコート(井25)を用いて塗布した。これを乾燥した後、その上に上記組成の透明塗料Fを同様にして塗布、乾燥して、PETフィルム上に2層構成の厚さ30 $\mu$ mの転写層を形成し、転写剥離型の本発明の保護部材を得た。

更に、実施例1と同様にして、ラミネートサンプル3を得た。

## 比較例2

透明塗料Bを塗布せず、透明塗料Aのみを乾燥膜厚が30 $\mu$ mとなるようにPETフィルム上に塗布する以外は実施例1と同様にしてラミネートサンプル4を得た。

## 比較例3

透明塗料Eを塗布せず、透明塗料CとDを同様に乾燥膜厚がそれぞれ15 $\mu$ mとなるようにPETフィルム上に塗布する以外は実施例2と同様にして保護部材を形成し、実施例1と同様にしてラミネートサンプル5を得た。

見えるものを(×)とした。

## (2) 耐光性：

キセノンフェードメータ中で、20時間サンプルに光照射(1=0.92 w/m<sup>2</sup>、420 nm)した時の、マゼンタ印字部の光照射前後での色差 $\Delta E^*$ ( $L^*$ 、 $a^*$ 、 $b^*$  各色系)を測定し、 $\Delta E^* \leq 5$ である場合を(●)、 $5 < \Delta E^* \leq 10$ である場合を(○)、 $10 < \Delta E^* \leq 20$ である場合を(△)、 $20 < \Delta E^*$ である場合を(×)とした。

なお、耐光性試験に際し、光照射には、アトラス(Atlas) Gi36〔キセノン(Xenon)ウェッジオメータ〕(商品名、アトラス社製)を用い、測色は分光光度計UV-240(堀島製作所製)を用いたカラーバックシステムによって行なった。

## 比較例4

透明塗料Gを塗布せず、透明塗料Fのみを乾燥膜厚が30 $\mu$ mとなるようにPETフィルム上に塗布する以外は比較例1と同様にして保護部材を形成し、実施例1と同様にしてラミネートサンプル6を得た。

以上の実施例1～2及び比較例1～4で得られたラミネートサンプル1～6のそれぞれについて、次の2項目について試験して、評価した。その結果を表1に示す。

(1) 白色度：保護部材によってラミネート処理する前と処理した後での(保護部材の転写層によって覆われていない場合と、覆われた場合とでの)記録紙の印字されていない部分の白さを、目視によって比較し、ラミネート処理前後で記録紙の白さに変化がなかったものを(○)、ラミネート処理によって転写層によって覆われた部分が少し黄色に着色されて見えるものを(△)、非常に黄色に着色されて

表 1

	ラミネート サンプル	白色度	耐光性
実施例1	1	○	●
実施例2	2	○	●
比較例1	3	○	△
比較例2	4	×	○
比較例3	5	×	○
比較例4	6	×	×

## 特開昭62-59076(8)

品に実施することができ、記録画像を本発明の保護部材の有する転写層で保護することによって、画像には耐水性、耐摩耗性、耐溶剤性等の特性が付与される。

特に、本発明の保護部材の有する転写層には、少なくとも紫外線吸収剤と、光安定化剤と、蛍光増白剤とが含まれていることにより、転写層を透過する光のなかで、画像を形成する染料の劣化の原因となる300～380 nmの波長領域の光が紫外線吸収剤と蛍光増白剤とによって効果的に吸収、カットされ、転写層によって覆われた画像が、上記の波長領域の好ましくない光から保護されるので、結果として画像の耐光性を著しく向上させることができる。

しかも、蛍光増白剤の含まれる層を紫外線吸収剤の含まれない独立の層としたため蛍光増白剤が効果的に機能し、ラミネート処理された被記録材の白色度が十分なものに保たれ、また蛍光増白剤の使用量を減らすことが可能となった。さらにこの層に添加物を入れ光沢のある層とすることによ

り、画像面上の転写層表面に光沢を得ることもできるので、光沢性に欠ける多孔質の被記録材を用いた場合であってもプリント装置に簡易に十分な光沢を付与することが可能であり、それによって記録画像の鮮明性や品位をより良好なものとすることができる。

また紫外線吸収剤によって吸収されなかった紫外線により、あるいは何かの理由により発生したラジカルを転写層に含まれる光安定化剤が無害化するものでラジカルにより画像が劣化させられることがなくなり、かつ転写層がラジカルにより劣化させられることもなくなるので転写層に含まれる紫外線吸収剤と蛍光増白剤の上記作用が減少することもない。

また紫外線吸収剤と光安定化剤が含まれる層を別々の層とした場合は紫外線吸収剤と光安定化剤の相溶性が悪い組み合わせでも使用できるという利点がある。

更に、転写層の加熱処理前後での収縮率とプリントの収縮率との差が小さいように転写層を形成

することができるので、カールを防止させることなく片面（画像面）のみのラミネート処理が可能である。そのため、記録画像の変色、にじみ等を生じさせる原因となる比較的修復しにくい記録液の記録剤成分以外の成分、例えば溶剤成分を、プリントの裏面から徐々に蒸発させて、これら成分が画像中に残留することによる記録画像の劣化を防止することができ、従って、十分な乾燥定着処理時間がとれない記録後の画像でも、本発明の保護部材を用いてラミネート処理し、目的の用途にすぐに使用することが可能となった。

## 4. 図面の簡単な説明

第1図及び第2図は本発明の保護部材の一例の断面部分図を、第3図(a)及び第3図(b)は、本発明の保護部材を用いたプリントのラミネート処理を、処理されるプリント及び用いる保護部材

- 1b : 紫外線吸収剤及び光安定化剤含有層
- 1d : 紫外線吸収剤含有層
- 1b' : 光安定化剤含有層
- 2 : 基材
- 3 : プリント
- 3a : 記録画像面

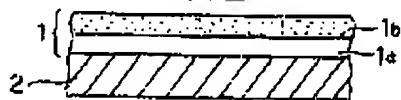
出願人 キヤノン株式会社

代理人 若 林 忠

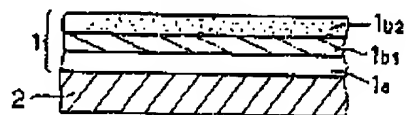


特開昭 62-59076 (9)

第 1 図

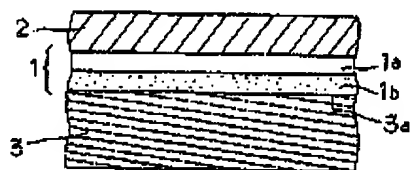


第 2 図

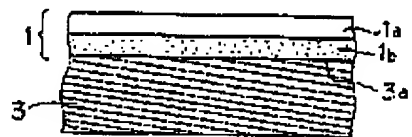


第 3 図

(a)



(b)



第 I 頁の続き

①Int. Cl.<sup>4</sup>

// B 41 J 3/04  
29/00  
31/00

識別記号

1 0 1

庁内整理番号

8302-2C  
6822-2C  
7339-2C